

法政大学と連携した まちづくり人材の育成

～自治体まちづくり職員育成プロジェクトの活動報告～

法政大学地域研究センター＋まちづくり塾

伴 宣久 法政大学地域研究センター客員研究員、元台東区都市づくり部長
御正山 邦明 法政大学地域研究センター客員研究員、板橋区職員
齋藤 敦 足立区職員
上山 肇 法政大学教授、法政大学地域研究センター兼任研究員
自治体まちづくり職員育成プロジェクトリーダー



背景

近年、日本の都市部では少子高齢化や都市構造の変化が進行し自治体が担う**まちづくり業務の多様化・高度化が求められています。**

こうした社会状況を踏まえ、自治体職員の人材育成は喫緊の課題となっています。

我々は、2021年度より、法政大学地域研究センターと連携し「自治体まちづくり職員育成プロジェクト」を始動し、各自治体の若手・中堅職員が主体的に学ぶ場となる「まちづくり塾」を設け、実践的な学びと交流を通じて、**次世代のまちづくりリーダー育成**に取り組んでいます。

「自治体まちづくり職員育成プロジェクト」とは

本プロジェクトは、**自治体のまちづくり職員の育成を目的とした「場づくり」に関する取り組み**です。

主に東京都特別区の職員を対象に、定期的に「まちづくり塾（研究会）」を開催し、職員同士の情報交換や自治体間の連携を促進します。

これにより、自治体職員の政策立案能力の向上を目指し、効果的な人材育成の仕組みや構築方法を探求することを目的としています。

I まちづくり塾の開催

2

「まちづくり塾」は、自治体職員が現場の課題解決力を身につけることを目的とした実践型の研修・交流プログラムです。

定期的に事務局会議を開催し、2023年10月の第1回まちづくり塾を皮切りに、2025年4月までに計5回の塾を実施してきました。

各回ごとに異なる地域・テーマを設定し、現地見学やワークショップ、アンケート調査などを実施しています。



自治体まちづくり職員育成プロジェクト

育成の場づくり



まちづくり塾へ参加・参画
情報共有・意見交換



政策立案能力の向上
自治体間の連携

自治体まちづくり職員

第1回 まちづくり塾 @ 墨田区

2023年10月7日開催。テーマは「**浅草・東京スカイツリーエリアの一体化**」。東京スカイツリーを核とした鉄道高架下等の整備事例を題材に、自治体職員を対象とした研修を実施しました。参加者は26名で、北十間川周辺整備のビジョンやデザインガイドラインなどの資料をもとに、まちづくりの実践的な知識を学びました。

アンケートでは「まちづくりの実際を広く学べて良かった」「駅周辺や鉄道沿線の再開発事例が参考になった」といった前向きな意見が多く寄せられました。一方、「見学の時間配分」や「共創のまちづくりが重要」など、運営面への要望も挙がりました。

第2回 まちづくり塾 @ 港区

2024年2月3日に**浜松町駅周辺のまちづくり**をテーマに開催されました。芝地区、竹芝地区など各エリアの担当者が、浜松町駅周辺の今後の整備やマネジメントの現状・課題について発表を行いました。その後、現地視察を行いました。参加者は36名でした。

参加者アンケート（回収率38%）によると、参加動機については、多くが「まちづくりに興味がある」「仕事で関わっている」と回答。浜松町駅周辺では「駅まちづくり」や「都市計画道路整備と沿道まちづくり」「公共交通の活用」が、参加者の興味のある話題となりました。

第3回 まちづくり塾 @ 足立区



2024年5月18日に足立区で開催された第3回まちづくり塾では、約50名が参加し、**足立区のエリアデザインやSDGs未来都市・自治体モデル事業**に関する最新の取り組みについて紹介されました。

参加者からは「エリアデザインやSDGsの取り組みを具体的に知ることができた」「まちづくりに役立つ情報が多かった」などの前向きな意見が多く、満足度も高い結果となりました。

また、区民同士の情報交換の場としても、綾瀬での取組みは、有意義だったという声がありました。

第4回 まちづくり塾 @ 中野区



2024年8月10日開催の第4回まちづくり塾では、**中野駅周辺のまちづくりや将来構想**について講義を受け、その後、中野区新庁舎、駅周辺の基盤整備、再開発についての視察が行われました。

参加者アンケートでは、参加者の75%がまちづくりに強い関心を持ち、他自治体や企業とのネットワーク形成やエリアマネジメントの活用・連携への期待が高いことが分かりました。

全体的な満足度も高く、従来は紙で提供していた資料の電子化にも前向きな意見がありました。

第5回 まちづくり塾 @ 台東区



2024年10月7日、特別区を中心に62名が参加し、台東区立浅草文化観光センターで、第5回まちづくり塾が開催されました。講義では、台東区の基礎的なまちづくりから、**上野公園口周辺のグランドデザイン、パンダ広場のエリアマネジメント、御徒町地区の大街区化**など具体的なまちづくりでの課題と解決策が示されました。

講義後、浅草から上野、御徒町間を現地視察しました。参加者のアンケートでは、これまでのまちづく塾でのアンケート結果と同様に、参加者が興味ある課題について確認することができた。

Ⅱ 調査・研究活動

5



出版などの活動を通じ、自治体のまちづくりに役立つ知識や事例の共有を進めています。今後もさらに実践的なプログラムを拡充し、自治体間の連携や自律的な学びの場づくりを目指します。

① 書籍の出版

Read Me



まちづくり塾の活動を自治体まちづくりに関する実践的な知見としてまとめ、これまで4冊の書籍を出版しました。

② シンポジウムの開催



2024年12月7日（土）、地域研究センターと自治体まちづくり塾が共催で「東京・自治体まちづくりの将来像」をテーマとし、シンポジウムを開催し、約100名を超える参加者がありました。

～ 第一部 講演会 ～

講演① 防災【も】まちづくり

東京大学生産技術研究所教授 加藤孝明 氏

講演② エリアマネジメント×再開発事例に基づく異点の整理

(株)シグマ開発計画研究所代表取締役社長 原 拓也 氏

講演③ 今求められるロボティクスを活用したまちづくり

元NEDOアドバイザー、現内閣府SIPロボティクスPM 関根 久 氏

～ 第二部 パネルディスカッション ～

「人が支える・人を支える“まちづくり”」

ファシリテーター：法政大学大学院 政策創造研究科教授 上山 肇 氏

～ 懇親会 ～

③ 学会への研究発表

学会において都市再生や地域社会における政策形成に関する発表や議論が行われました。

Read Me



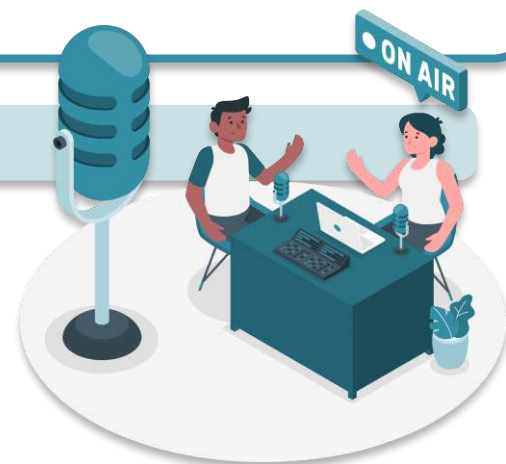
- 青木優子（法政大）・上山肇「**地域社会における外国人住民との共生のあり方に関する考察 その1 ー東京都62区市町村の取組の実態ー**」2023年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ pp319～322、2024. 3
- 青木優子（法政大）・上山肇「**地域社会における外国人住民との共生のあり方に関する考察 その2 ー東京都62区市町村における外国人住民とのコミュニティ形成の観点からー**」2023年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅰ、pp. 322～325、2024. 3
- 橋本佳明（法政大）「**自治体の政策形成における市民参加手法に関する考察 ー東京都三鷹市第5次基本計画策定プロセスを事例としてー**」2023年度全国自治体学会川崎大会研究発表資料原稿、2023. 8
- 橋本佳明（法政大）・上山肇「**自治体のコロナ禍における市民協働のまちづくりに関する一考察 ー東京都多摩地域30市町村を対象とした市民協働に関する実態調査からー**」2023年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ、pp. 347～350、2024. 3
- 笹沼 史明（板橋区都市整備部）・千葉亭二・御正山邦明・上山肇「**東京都板橋区における公共交通施策のあり方に関する一考察 ー移動に関する地域住民アンケート調査結果からー**」2023年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ、pp. 351～354、2024. 3
- 内藤結子・上山肇「**都市再生特別地区によるまちづくりが地域に与える影響と効果に関する考察 ー港区浜松町駅周辺のまちづくりの経緯と現状・取組からー**」2024年度日本建築学会大会（関東）、pp. 439～440、2024. 8
- 御正山邦明・上山肇「**スポーツスタジアムの立地特性によるまちの賑わい創出に関する研究**」2024年度日本建築学会大会（関東）、pp. 485～486、2024. 8
- 濱口加津子・上山肇「**鉄密地域におけるマンション防災に関する一考察 ー千代田区分譲マンション実態調査を対象として**」地域活性学会第16回研究大会（名古屋）研究発表予稿集、pp. 240～243、2024. 9
- 御正山邦明「**東京都内の自治体における公共交通の取り組みと今度のあり方について ーコミュニティバスに続く今後の公共交通ー**」2025年度自治体学会長野大会研究発表セッション、2025. 9

④ 情報発信など

都市計画家協会のPodcast番組から配信

協会公式Podcast番組「みんなのまちづくりトーク」にて、「伴宣久さんと語る、地域と行政が共に育てるまちづくり」と題して、4回に分けて配信しています。

Listen to Me



#65～#68 みんなまちトーク

Spotify



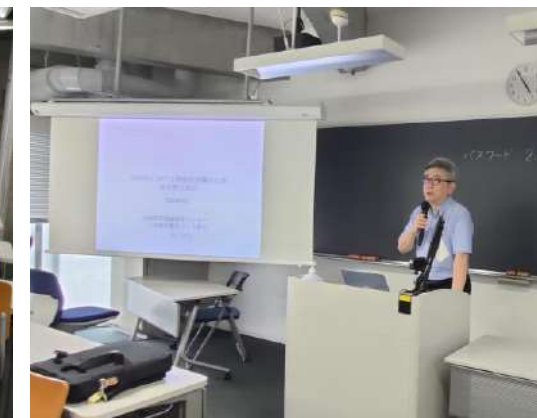
Apple Podcast



Podcast for Amazon Music



将来人材の発掘 ～ 大学での講義 ～



2025年、法政大学デザイン工学部の授業で「台東区における技術系職員の仕事」として、技術系公務員の仕事について講義する中で、まちづくり系職員のやりがいと、成果についてお話しました。

Ⅲ プロジェクトの成果

7

まちづくり塾に参加した職員からは「公共交通やエリアマネジメントへの関心が高まった」「他自治体職員との情報交換が刺激になった」といった声が多く寄せられています。（アンケート結果：まちづくりへの興味75%、公共交通への関心68.8%など）

参加者の声

プロジェクトの主な成果として次のことが挙げられます。

成果1

まちづくり塾により公民連携によるまちづくりに関する情報を共有する仕組みができたこと。

情報共有の場づくり



成果2

今まで求められていた仕事を通じた他自治体職員との交流の場ができたこと。

職員による自治体間ネットワークの構築



成果3

参加者各人がまちづくりを客観的かつ包括的に見る能力を育めていること。

まちづくり人材の育成



IV 今後の展開

8



本プロジェクトでは、2年間、5回の「まちづくり塾」、大学院での研究・学会での発表、今日後シンポジウムの開催を通して、自治体職員のまちづくりに関するスキル向上と意識改革に一定の成果を上げました。

これまでの活動の課題は次のように認識し、今後の活動を展開していきます。

① プロジェクト活動から得られた知見・課題

まちづくり人材育成の必要性（学ぶ機会・場所の必要性）

今まで5回に渡りさまざまな意見交換会・塾を開催することによりまちづくりに対する参加者の興味や課題が明らかになるようにまちづくり個々の自治体で実施が困難な職種や自治体間の連携のきっかけになるのではないかと考えられます。

公表の場・機会の必要性

プロジェクト卒業員研究員による学会等への論文執筆や2冊の出版を通して公表する場が得られたことは大きな成果を共有できると考える。また、職員主体で開催しうるまちづくり塾の実施が不可欠な仕組みの必要性が示唆された。今後は実施主体の拡充に繋がるものではないかと考えます。

持続可能な仕組みの必要性

自治体職員の異動等を加え、プロジェクト会議の継続を通し、スタッフ会議の新たなスタッフ、仕組みを加え、今後も継続可能性に繋がるものではないかと考えます。

② 今後の展開

このプロジェクトの位置付けを継続しながら、地域研究センターでの開催や出版等を通して広く参加者を募り、まちづくり塾の効果や自治体職員のスキルの人材育成効果を検証し、公共の研修所との連携などを通じて「まちづくり」について研究していきたいと考えています。

